初任期の教員が育つもうひとつの場所

大阪狭山市がじゅまるカフェの記録

大阪教育大学大学改革強化推進事業　教員能力開発プログラム

大阪教育大学

目　　次

はじめに　3

第１回　アイコンタクト　4

第２回　表情　10

第３回　姿勢　16

第４回　声　21

第５回　「聴く」ことの力　28

第６回　Ｙｅｓ　ａｎｄ　32

第７回　みつばち ブンブン カフェ　37

ふりかえり　43

はじめに

「がじゅまるカフェ」は、野口克海先生が「継続して若い先生が集まる場があるととても力がつく」と言われたことが契機になっています。平成２６年度から大阪狭山市教育委員会事務局と市校長会が共催して初任期の教員の「教育者」としての芽が「がじゅまるの樹」のように大きくたくましく育つことを願ってカフェが始まりました。

私は、平成２７年度の年間７回、がじゅまるカフェにかかわらせていただきました。私が所属する大阪教育大学の教員能力開発プログラム研究開発チームには、「省察力」と「同僚性」の育成を核にした初任期教育育成支援プログラムの開発という先行研究があります。このことは、学校におけるＯＪＴを軸とした効果的な初任期教員の育成の重要性を示すものですが、学校以外に「もうひとつの場所」として、初任期の教員が集い、語り合う場が教員を育てるのではないかというのが野口先生からいただいた仮説です。

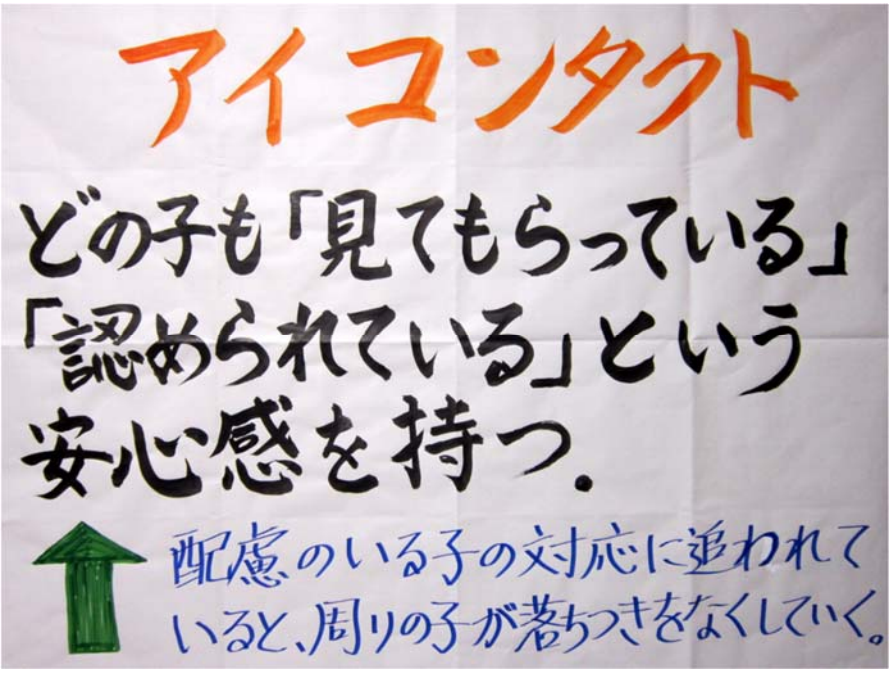
大阪狭山市教育委員会の長谷雄二教育長をはじめ、田中典子理事、事務局の皆さん、山田順久先生には、この一年間たいへんお世話になりました。大阪狭山市の初任期の教員を育てようとする熱意を間近に感じながら、がじゅまるカフェを進めさせていただくことができました。この取組は、いくつかのマスメディアにも取り上げられましたが、このような詳細な記録を取っていただいておりましたので、初任期の教員を育てる多くの機関の参考になるプログラムとして提供できる運びとなりました。感謝申し上げます。

平成２８年３月

大阪教育大学 教職教育研究センター　岡田耕治
TEL.072-978-3463　FAX.06-7635-7821
E-mail. okadako@cc.osaka-kyoiku.ac.jp

第１回がじゅまるカフェ

平成２７年５月２７日 18:00-19:50　大阪狭山市立北小学校



〈講義１〉行為の中の省察

①　教職の核になるたった一つのスキル

　これまでの３８年間の教師生活を振り返って、教師にとって最も大切なスキルは何かと考えました。その結果、教育学者ショーンの「行為の中の省察」という言葉に出会いました。

②　３つのインタビュー

・「構造化インタビュー」は、例えばレストランなどのアンケート項目、あらかじめ質問事項をきめ、それに対して回答を求めます。

・「半構造化インタビュー」は、あらかじめ質問事項は決めておきま

すが、回答によって変化したり、掘り下げたりします。
・「非構造化インタビュー」は、質問事項を決めず、自由に話をし、情報を収集するものです。
　子どもと話すときは、「半構造化インタビュー」が有効です。もちろん、じっくり話を聞きたいときは、「非構造化インタビュー」。

③ インタビューをする時の位置による会話量の変化
・面と向かって座る　→　この時の会話量を（１）とすると、
・横に座る　　→　会話量が（２）倍
・９０度に座る　　→　会話量が（６）倍
　子どもと話をするときは、このようなことを知った上で、どのポジションを取るのかを決めるといいと思います。

〈活動１〉ペアでインタビュー

〇会話量が増えるポジションで、半構造化インタビューに挑戦
・まず、相手の良さを引き出せる質問を３つ考える。
・ペアになって、考えた質問に基づいてインタビューをする。

〈講義２〉５年生の隣りを校長室に
① 中学校と小学校の教員のちがい
・中学校と小学校の教員のちがいを校長経験から言い表すと、
　中学校は「孫をおんぶ」、小学校は「わが子をだっこ」
・中学校は、子どもの指導に行き詰ったら別のルートがありますが、小学校は担任が抱え込んで指導しています。どちらもいい面がありますが、チームで取り組むことが大切になっています。

② 小学校の校長時代の話

・荒れる５年生の教室の横の空き教室を校長室にしました。
・男子と女子を別別にして、サボナマットを使って、どんな学級にしたいのか、自ら学級を見つめ直す授業を行いました。

③ 家庭におけるアイコンタクトも不足しがち

担任とともに校長として家庭訪問したとき、保護者が子どもに「あやまりなさい」と促しているにもかかわらず、ゲームから目を離さない子どもがいました。これではいけないと思って、保護者の皆さんに「ゲームを切って、子どもとたっぷり話してください」と伝え続けた結果、子どもが落ち着き始めたのです。

④ サボナマットの活用方法

・「あなたを見ていますよ」という信号を送ることが大切。
・暴れている子や教室を飛び出す子に対して、「なぜそんなことをしたのか？」と暗い過去から責めるのはマイナス。
・子どもが冷静に自分を見つめることができるように、明るい未来→暗い過去→明るい過去→暗い未来→明るい未来の順に話を進めます。
・教室から飛び出した子どもをつかまえた時に、「なんで、出ていくんや。あかんやろ！」ではなくて…
ⅰ）今日は、どんなことを考えて学校へ来たの？
ⅱ）何があったの？
ⅲ）このごろ学級の様子はどう？
ⅳ）このままやったらどうなる？
ⅴ）これからどうなりたい？

こんな声かけで子どもは落ち着いて自分を見つめることができます。

⑤ サボナというのは、あなたをしっかり見ていますよという挨拶言葉です。アイコンタクトを意識した授業ができていますか？

・授業中、黒板と教科書しか見ていない先生、一部の子どもとしかアイコンタクトできていない先生…そんな先生がいます。どの子もアイコンタクトを求めているのではないでしょうか。

・「こっちを向いてよ」「わたしのこと、見てくれないの」

そんなコールがあふれている学級が荒れやすいと思います。

〈活動２〉自分の視野をひろげよう

○３人１組で、各自の視野を確かめ、広げるようにする。

Ａ…検査される人。固定したＢさんの人差し指を見ながら、移動するＣさんの人差し指を目で追う。Ｃさんの指が見えなくなると手をあげる。

Ｂ…Ａさんの正面で、基準となる人差し指を立てる。

Ｃ…人差し指を立て、ゆっくり移動しながら上下左右に移動する。

〈助言〉視線を広げて教室全体を視野に入れ、子ども全員を自分の中に入れるような立ち方をすることが大切である。

〈活動３〉アイコンタクトを送りながら９０秒で伝える

○グループで一人ずつ順番に、立って「このごろがんばっていること」を９０秒で話す。

・発表者は聞き手に「アイコンタクト」を取りながら話す。

・聞き手は、話しやすい雰囲気をつくり、拍手で盛り上げる。
・発表後、みんなで感想を伝え合う。

〈参加者の感想〉参加者は４１名

① はじめてのがじゅまるカフェは、毎日の授業で子どもたちのことを見ているつもりでも、しっかりと見れていないのではないかと考えることができました。ほんの少しの努力で、子どもたちとの距離をぐっと近づけることができるのだと思いました。

② 「アイコンタクトの力」というタイトル通り、目を見て伝えることの重要性を知りました。授業時に、学級全体を見る視点と一人一人をゆっくり見る視点を持ち、児童にかかわろうと思いました。また、サボナマットで児童の気持ちをまとめたり、知ったり、方向づけたりと便利な活動も学べました。

③ 初めての「がじゅまるカフェ」ということで、どんなことをするのだろうと、とても興味がありました。行ってみると、学校現場での実際の経験や具体的な実践例を聞くことができ、本当に勉強になりました。特に、アイコンタクトが３種類あることが自分には、少し驚きで、グループへのアイコンタクトがあるのだと初めて気づかされました。

④ サボナマットやアイコンタクトのお話を聴いて、実際に使ってみたいものばかりでした。とくに、アイコンタクトや視野の広さについては、グループワークを通して、普段ほとんど意識していないことばかりだと感じました。教室で、一人一人の子どもの顔をみるように授業をするよう意識することが増えました。

〈事務局のふりかえり〉

・教師はとっても忙しいけれど、大阪狭山市の先生たちはこんな時間の研修にも積極的に参加されて、すばらしい。

・下を向いている子に「どうしたのだろう」の気持ちを抱くことが、教師力を高める。そして、教師同士が対話することで何かが生まれる。

・「明日、子どもに会うのが楽しみ。こんな工夫をしてみよう」
という自分に気づく…
そんな会に、がじゅまるカフェがなればいいですね。

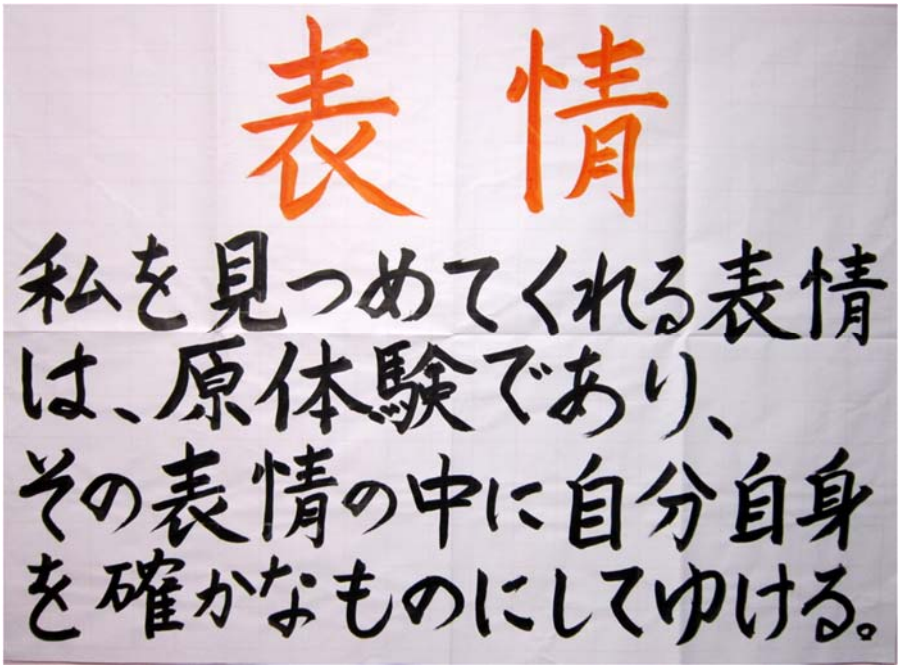
〈記録後記〉

子どもと話をする時の、子どもとの位置、アイコンタクトの大切さなどを理解することができた。これらのことを実際に経験することで、ふだん教師として自分ができていないことがよくわかった。参加した先生たちが、早速明日からの授業に生かすことで、授業がどのように変化していくのか楽しみである。

岡田先生は、校長として勤務されていた小学校の子どもたちが作った俳句に言葉を添えて、「俳句名人になろう」として一冊の本にまとめられている。今日、当時の５年生の様子をお聞きして、そこに記載されていた卒業式の式辞の中の
「卒業す今いちまいの絵になりて　　耕治」
という俳句が、あざやかに色彩となってあらわれてきた。卒業式での誇らしげな子どもたちの姿が目に浮かぶようだった。

第２回がじゅまるカフェ

平成２７年６月１８日 18:00-19:45　大阪狭山市立南第一小学校



〈活動１〉

○４人一組（前回参加した人と、今回初めての人が混合で）になって、前回のがじゅまるカフェをふり返る。

・「サボナマット」や「アイコンタクト」について、前回どんなことを学んだか。

・自分のクラスでやってみて、どうだったか。　など

〈講義１〉アイコンタクトから表情へ

① この世に生まれてから、保護者に笑いかけられ、あやされて、この人は私を守ってくれる人だと「表情」を認識していきます。

② 子どもの表情は、そんな保護者の表情のなかで育まれたもの。

③ 「先生、私の方、見てくれへん！」「先生、なんだか今日は機嫌が悪そう」そんな思いを持っている子どもがいないでしょうか。

④ 教師がいい表情で授業したり話しかけると、子どもは安定します。

〈活動２〉表情を豊かにするトレーニング

・眉の上げ下げ体操
30 回×5 セット

・口角を横に伸ばす体操
30 回×5 セット

・口内を舌で円を描く体操
右左２周ずつ

・この活動は、演劇をする人たち、客室乗務員なども行っています。入浴しながら続けて、いい表情で子どもたちの前に立って下さい。

〈講義２〉どんどん使いたい「とっておきの言葉」

① 保護者対応の場面で、「とっておきの言葉」
「そうですか」「そうなんですか」

② これを繰り返すだけで、怒りのエネルギーを緩和できます。
気持ちを込めて言えるか、やってみましょう！

〈活動３〉グループで「とっておきの言葉」を練習

・表情をおさえて　　・おわびする気持ちで

・喜びの気持ちを込めて　　・怒りが伝わるように

・驚きの気持ちを表にして　　・感動が伝わるように

〈講義３〉

① 練習を振り返って、「そうですね」はだ。「ね」は、肯定的に伝わるので、語尾は「か」がいいと思います。否定も肯定もしないで、いい関係をつくりましょう。

② 一人で、鏡の前でも練習できるので、表情の練習をして、どんどん使えるようにして下さい。

③ 次は、子どもの本音を引き出す「とっておきの言葉」
「どうしたん」と「じゃあどうする」を使ってみましょう。

④ 子どもの本音は、何層にも覆われています。

・負の感情＝どうせムリ・別に・しんどい

・不満＝だれもわかってくれへん

・不安・傷つき＝自分はどうせアカン人間や

・本音＝こうなりたい

⑤ 授業を受けようとしない生徒に　　C…子ども　T…教師

T；どうしたん？

C；どうせムリやし。しんどい。

T；どうしたん？

C；べつに…

T；どうしたん？

C；だれも俺のこと、わかってくれへん。

T；どうしたん？
C；どうせ、俺なんかどうでもいい人間や。あかん人間や。
T；どうしたん？　もっと教えて…
C；ホンマは高校行きたい。勉強わかりたい。
T；じゃあ、どうする？

〈活動４〉子どもへのとっておきの言葉
○いろんな「どうしたん」「じゃあどうする」を言えるか、グループでやってみよう！
「どうしたん」
・表情をおさえて　　・気軽に
・申し訳なさそうに　　・できるだけやさしく
・心配しているよという気持ちを込めて
「じゃあどうする」
・表情をおさえて　　・楽しそうに
・突き放すように　　・考えはじめられるように
・力がわいてくるように

〈活動５〉グループで「気になっている子」の話をしよう
○グループで、受け持っている子どもについて自由に語り合う。
「わたしの受け持つクラスに、こんな子がいて・・・」

〈活動６〉バーン！5 連発
○グループで互いの表情からタイミングをつかみ、気持ちをそろえて、「バーン！」と 5 回連続で、バンザイしよう。

〈講義４〉まとめ・ふり返り

① 研修も授業も、構成が大切です。

② ＷＩＳＹプログラムの構成は、とても良く出来ています。

③ 研修に参加する者や授業を受ける子どもたちをイントロダクションで盛り上げて講義に入ります。後半は、グループワークで山場をつくり、最後は静かにふりかえるという流れです。

④ 今日は、ある教員の詩を読んで、静かに終りましょう。

「ほんまに通じあえへんなあ。
　そやけど、通じあえへんということだけ、
　おたがいに通じあえたんやなあ。
　おたがいに違うにんげんやったんやなあ。
　よかったなあ。　基」

〈参加者の感想〉

①表情で伝えるものが、言葉より多いなあと感じました。とっておきの言葉を言うときも、言っている３人の顔を見て、判断できたものも多く、イントネーションも大切ですが、それ以上に表情から伝わるものが心を動かしたり、気持ちに寄り添うきっかけになると思いました。普段は忙しくて、なかなか余裕のない顔をしていることがあるだろうなと反省しました。子どもたちと接するとき、私自身の表情も子どもの表情にも気をつけていきたいと思います。

②表情のトレーニング、とってもおもしろかったです。自分がいかに同じ表情しかしていないかということがわかりました。お風呂でトレーニングを続けたいです。「どうしたん？」は日常の中でよく使う言葉なので、子どもたちが自分を見てもらえていると感じられるよう、しっかりアイコンタクトをとり、言い方も考えていきたいと思います。バーンのアイコンタクトのゲーム、大人がやってもおもしろく笑顔になれるものだったので、是非学級でもやってみたいです。

③今日は岡田先生のお話を聞かせていただき、グループ交流をし、表情をつくることの大切さを感じました。グループで交流していても「どうしたん」という一つの言葉に気持ちを込めても通じていないと実感し、それじゃあきっと子どもにも通じていないだろうと思いました。しかし、同じ学校の先生はわたしの気持ちをすべてわかってくださいました。日頃から一緒に働き関係が築かれているからこそ分かってもらえたと思います。これは、子どもに対しても一緒だと思います。関係ができあがっていれば、表情のとらえ方もかわると思います。これからも子どもとの関係をしっかり築き、いろいろな表情のあふれる学級にしていただきたいと思います。

〈記録後記〉

岡田先生の研修会に参加すると、いつも意表をつかれる。
今まで、子どもたちに対し、教師としての自分の「表情をつくる」ということを考えたことはなかった。

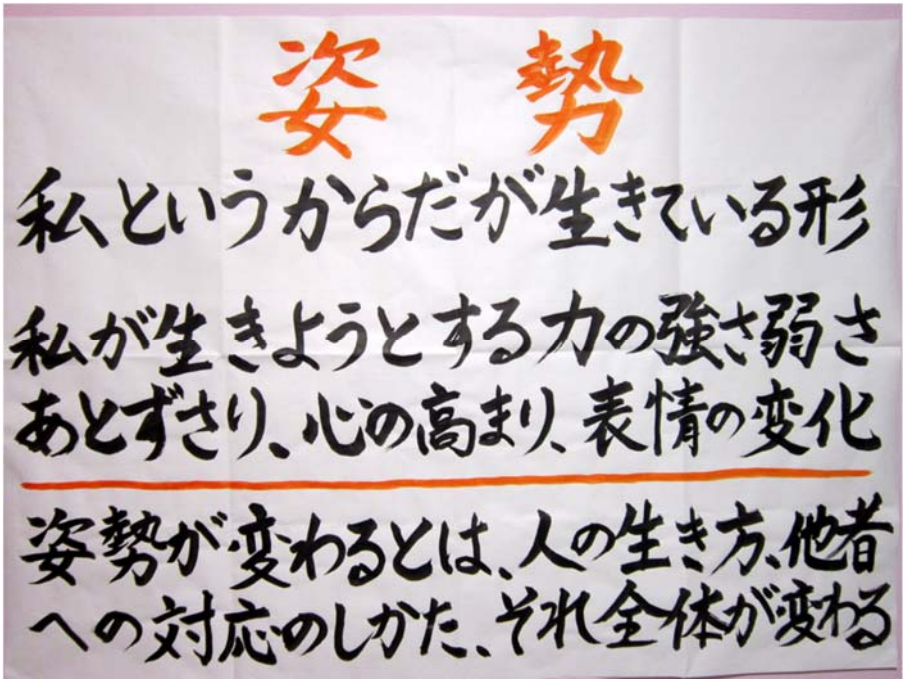
この研修会を機会に、普段、自分がどのように、どのような表情で、子どもたちへ接しているのかを振り返ってみたい。そして、今日学んだことを繰り返し練習することで、教師としてより温かい表情で、子どもたちと接することのできる教師になりたいと思った。

また、子どもたちが、学んだ、考えたと静かに余韻を残すような授業の構成を考えてみたい。

研修会の最後に、詩を読みながら、クラスの子どもたちの顔が浮かんできた。
「私を見つめてくれる表情は、原体験であり、その表情の中に自分自身を確かなものにしてゆける。」という言葉を心にとめながら、教師としての自分を向上させていきたい。

第３回がじゅまるカフェ

平成２７年７月９日 18:00-19:45　大阪狭山市立第七小学校



〈講義１〉前回のふりかえり

①　前回は「表情」というテーマで進めました。

「このごろいい表情で子どもと出会えてます、という先生はいますか？」「あれから子どもにどうしたん、と声をかけた先生はいますか？」

皆さんの感想から子どもの気持ちをつかむ言葉が教室にあふれていく、そんな手応えを感じています。

② 今日は「姿勢」について考えてみましょう。前半は、どしっとした姿勢や柔軟な姿勢について、体でも考えいくワーク。後半は「巣立ちツバメカフェ」という対話型のワークを行います。

〈活動１〉

① はじめに、二人ペアになって、お互いに体を押してみる。

② ぶれない姿勢を作る。

「おしりから頭へ突き抜ける感じで、背筋を伸ばして立ってみてください。おへそのした辺りに重心を置いて、自分が教師として何を大切にするのかひとつだけ思い浮かべてください。これがセンタリングです。お互いに動かしてみてください。朝子どもたちの所に行く前、このセンタリングを行うとずいぶん違いますよ。」

③ 柔軟な姿勢を作る。

「教師には柔軟さも必要です。子どもたちに委ねながら子どもの活動の割合を大きくしていくとき、教師の柔軟性が必要となってきます。２人一組で、割り箸を人差し指と人指し指で挟んで、自由に動いてください。次は、ペアのうち一人は目をつむって、一人は誘導してあげてください。」

④ 委ねる感覚をつかむ。

「それじゃ今度は、割り箸を離して、人差し指と人差し指で直接つながって動いてください。目を開けた人は、アイコンタクトを交わして、目を瞑っている人を渡していきます。」

⑤ 活動をふりかえる。

「どうでしたか。教師とは、ぶれないどっしりした姿勢と、子どもの変化に対応する柔軟性が求められる職業なんですね。」

〈講義２〉「巣立ちツバメカフェ」とは

① 〈次は「巣立ちツバメカフェ」です。まずグループで課題を「共有」の時間を取ります。先生方が今困っていることや子どもとの関係等を出しあってから「問い」を立ててもらいます。イメージとしては、一番切実なものや共通しているところから問いを立ててもらいます。いい問いが立つと、そこにたくさんの情報が集まってきます。それが「発散」です。〉

② 〈ツバメになった人は、この問いを持って、他のテーブルに行っていっぱいアイデアを、質より量でもらってきてください。そして最後に元のグループに戻って「収束」します。ここでは、いっぱいの情報を整理します。〉

③ 〈最後は「行動」です。活用できるよう、「行動」に移せるようにします。こういうツバメ・カフェのサイクルでみなさんで体験してみましょう。〉

〈活動２〉巣立ちツバメ・カフェ

〇講義の手順に添って、グループで活動する。

・課題を出し合い、問いを立てる。

・ツバメになった先生が他のグループへ行って意見をもらってくる。

・他のメンバーは、他のグループのツバメの先生の問いに耳を傾け、アドバイスする。

・シートに書かれた手立てについて、どれが有効か、マークする。

・その手立てを実際に行動に移せるような言葉にしてみる。

・「行動」の部分について、まとめて発表する。

〇それぞれのグループから出された「行動」
「今後は、年下のほうから、世代のちがう年上の教員にも話しかけようと思います」
「課題のある子どもへの対応について、今後はいろいろな先生方にも関わってもらおうと思います。」
「他児への言い方がきつい児童について、自分のことを好きになれるように、自己肯定感を持たせるようにしたいです。正しい言い方のモデルを示したいと思います。」
「子どもを引き付けられる教師になりたいです。そのために子どもの中にどんどん入っていって、遊んだりしたいです。」
「聞く姿勢を育てるために、ほめ方を工夫したいです。」
「懇談もあるので、保護者への伝え方を工夫したいです。具体的なものを準備して、よいことを中心に、課題もしっかりと伝えたいと思います。」

〈講義３〉ふりかえり
「第３回目どうでしたか。たくさんの先生方としゃべって、いっぱい解決策を得たようですね。いい表情で話している様子を見ることができてよかったです。これで本日は終わります。」

〈記録後記〉

３回目のガジュマルカフェが終了しました。
参加している先生方を見ていると、「笑顔」「自信」を感じる場面が増えてきました。教師としての成長を実感しています。

今日の研修では、教師には、「取り仕切るどっしりした姿勢」と、「子どもの変化に対応する柔らかさ」が求められるという言葉が心に残りました。

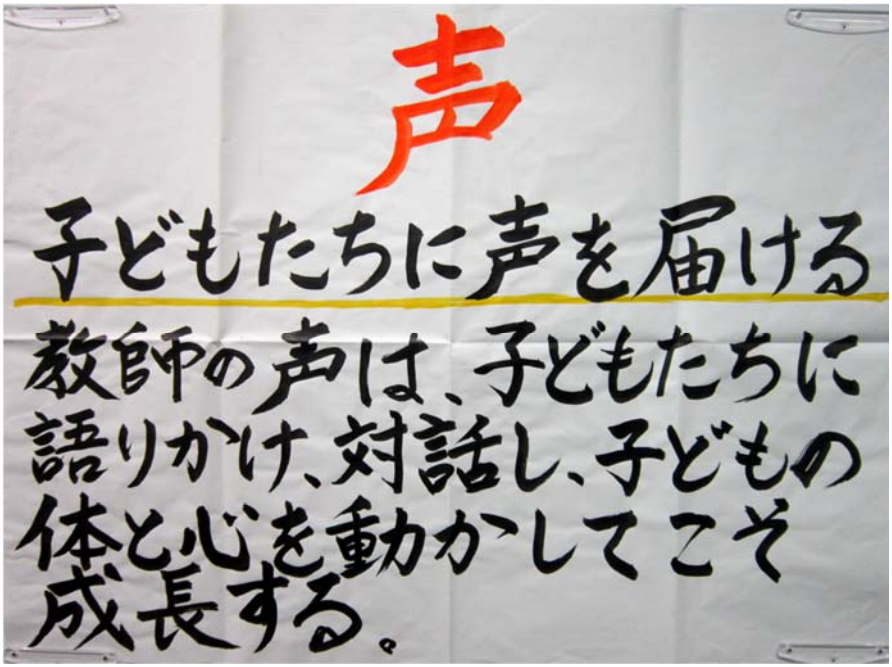
しかし、自分を振り返ってみると、子どもたちに対して、正反対のことをしていたのではないかと反省することもあります。

「巣立ちツバメ・カフェ」では、組織対応の大切さを学ぶことができました。一人の教師が課題を抱え込むのではなく、課題を組織で共有することで、よりよい解決策を見出すことのできる教師間のチームワークのいい学校でなければならないと思っています。

大阪狭山市の教師全員が、「取り仕切るどっしりした姿勢」と「子どもの変化に対応する柔らかさ」を持った教師になることをめざし、各学校で日々の地道な取り組みをすすめてほしいと願っています。

第４回がじゅまるカフェ

平成２７年９月２５日 18:00-19:45　大阪狭山市立南第三小学校



〈講義１〉これまでのふりかえりと今回の提案

① 「１回目はアイコンタクトをやりましたね。授業に入る前に、どの子にもアイコンタクトを送って、子どもたちが先生に見てもらえている、認められているという安心感を持って授業を始めていこうと提案しました。」

② 「２回目は表情です。表情は原体験です。小さいときにお母さん、お父さんにあやされて、その笑顔と出会うことによって、自分を成長させてきました。だから、いい表情の中にこそ自分自身を確かなものにしていける種があります。いい表情で子どもの前にたてるといいですね。」

③ 「３回目は姿勢でした。私という体が生きている形が姿勢です。私が生きようとする力の強さ弱さ、心の高まり、表情の変化がすべて姿勢に現れます。姿勢が変わると人の生き方、他者への対応の仕方それ全体が変わります。いい姿勢になったら、いい授業ができるようになります。」

④ 「がじゅまるカフェは、が＝学級のこと、じゅ＝授業のこと、まる＝丸くなって、カ＝語り合おうというのがキャッチコピーです。今日はさらに、が＝がまんせず、じゆ＝自由なこころで、ま＝間違いＯＫの、る＝ルーキーたちの、カフェというコピーを考えてきました。そんなカフェにいるような空間になればいいなと思っています。」

⑤ 「今日のテーマは「子どもたちに声をとどけよう」です。私たち教師の声は子どもたちに語りかけ、対話し、子どもの体と心を動かしてこそ成長します。今日はいろんなことを意識して、子どもたちにこんな声を届けたいなというようなことを気づいていく時間になればいいなと思っています。」

⑥ 「自分の声は変えない方がいいんです。作った声だと子どもになかなか届かない。子どもに届けようと思ったら自分の声を自分が知った方がいいと思います。自分の声は人に言ってもらわないとわからないから、自分の声で 90 秒間スピーチして、グループの人はその声を聞いていて、こんなことを感じたとシートに書いてください。１回目と２回目が終わったら、そのシートをプレゼントし合って、自分の声って人からはこんな風に聞こえてるんだってことを知ってください。」

〈活動１〉グループで各自の声のイメージをチェックする

○１回目＝それぞれのテーブルで自己紹介をした後、９０秒間のスピーチ１回目を行い、コメントしあう。

（声のイメージ・チェックシートを配布）

・スピーチの内容は参加１回目の人はアイコンタクト・表情・姿勢・声のどれに取組みたいか、２回目、３回目の人は実際にアイコンタクトや、いい表情でクラスに入って子どもたちがどうだったかなどを自由に話す。

〈講義２〉声に変化をつける

① 「声を安定して出していこうとすると呼吸ですね。腹式呼吸をすると、声が安定して出ます。練習してみましょう。肩幅に足を開いて立ち、おへその下に重心をおいて、お腹は洋ナシのようなイメージでお腹の底からスーッと息を吐ききります。吸うのではなく、吐いてしまうことをイメージして行う。８秒で吐ききって、４秒で鼻から空気を自然に入れる。ちょっとあごを引いて、８秒間息を止める。その後、８秒で息を吐いていきます。この腹式呼吸をやることで、気分が落ち着いてきます。それがいい声の源になります。」（練習をする。）

② 「落語家は絶えず意識していますが、声に変化をつけるということをやってみます。みなさんは今、自分の速さ、自分の高さでスピーチしました。それを高くゆっくり喋ってみたら、高く速めに喋ってみたら、低くゆっくり、低く速めにと、どの速さやどの高さが自分の声をより豊かにしてくれるでしょうか。落語家は、高くゆっくり始めて、お客さんがのってきたとしたら、そのペースを維持しつつ、眠そうになってきたら速めて、高いままだったらお客さんもしんどいので、低くゆっくり話するところ、低く速めに話すなど、スピードや高さを変えているんです。」

③　「皆さんが授業をする時、子どもたちがちょっと眠そうだなと思った時に、ペースを速くするとか、高さを高くすることで子どもたちがついてきてくれるようになります。いいスピーチは高く速めに始めて、低くゆっくりになって、最後はまた高く速めに終わると言われています。高さと速さを変えることによって、幅がでてくるんですね。自分の声を変える必要はないのですが、高さとか速さを変えることによって、子どもたちに声を届けていく。」

④　「高くゆっくりのイメージは、おおらか、ほんわか、やさしさ、安心感。高く速めは元気、若い、明るい、エネルギッシュ。低くゆっくりは、落ち着き、いやし、相談に乗ってくれそう。低く速めには、信頼感、クール、明晰さ、仕事ができそうです。電話の保護者対応なんかは、低く速めにがいいかもわかりません。テンションが高かったら相乗効果でテンションが上がってきます。」

⑤　「では２回目のスピーチはこの４つの中からどれかを選んでやってみてください。どこを選んだのかをグループの人に言って始めてください。印象が変わった所や、アドバイスもしてあげてください。愛のあるアドバイスをお願いします。」

〈活動２〉グループで２回目のスピーチを行う。

〇高くゆっくり、高く速めに、低くゆっくり、低く早めにのうちのどれかを選んで、子どもたちに向けてスピーチをする。聞いている人は、声のイメージ・チェックシートに感想を書く。

〈講義３〉ふりかえり

① 「声のイメージ・チェックシートが返ってきてどうでしたか。自分の声が人にどう届いているのかをイメージしながら、高くしたり低くしたり、速くしたり、ゆっくりしたりっていう変化をつけることで、子どもたちに届く声に近づけてください。」

② 「皆さんの中で、自分の声に自信がないとか、ちょっと何とかしたいなと思ってらっしゃる方はいますか？」
（ある教員が名乗り出る）

③ 岡田「理由を教えてください。」
教員「理由は、のほほんとした性格で、生徒に先生の授業眠たくなると言われたことが何回もあります。テンション高く、はっきり早口で言ったらいいかなと思ってやっていると、ある生徒から先生息切れするで、と言われました。僕はさわやかなところがいいんじゃないかと思うので、元気いっぱい生徒たちといい授業を作っていけるよう、頑張っていきたいです。」（拍手）

④ 「皆さん、今の話、よかったですね。聞きやすかったです。今日の表情はどうか、アイコンタクトは送っただろうか。いい姿勢で話せているだろうか。声の高さや速さはこれでいいんだろうかという事を、絶えず感じながら子どもに声を届けるということをやって下さい。先輩から、教員の声は教室の５ｍ先の床に声をぶつけろと教えてもらいました。ちょっとあごを引き気味にして床に声をぶつける感じで話すと、子どもたちにとっては聞きやすいのです。子どもたちに声を届けることを意識して、教師としての声を鍛えて行って欲しいなと思います。」

〈参加者の感想〉

①今回は、「声」というテーマで、教師にとっても大切なものがテーマでした。自分の声がどう聞こえているのか、不安だしいい声でない

と思うので、自信がありませんが、チェックシートをいただいて、みなさん温かいメッセージをくれたので、自信がちょっとわきました。声の高低、スピードで与える印象がかわるので、これからは、様々な場面で使いわけていきたいと思います。

②自分の声を客観的にきくことは、なかなかないですし、マイク越しの自分の声を聞いて気持ちがわるいなあと感じる程度でしたが、今日自分の声についてフィードバックを受け、改めなければならない点、自信が持てた点もありました。場面によってトーン、スピードを変えることが大切だと思いました。

③今日はありがとうございました。自分の声がどんな特徴があるのかわかり、おもしろかったです。また、こういうときは、どんな高さで、どのスピードで話せばいいのかも知ることもでき、明日から実践していきたいと思います。

④声というテーマで、日頃の生活を振り返った際に、意識して行っている部分は少なく、中々できない部分が多くあると感じました。私自身、声が高く、緊張すると早口になることが多いと思っていたが、グループでチェックし合うと、全く違う印象が却ってきて驚きました。声の高さや早さを意識して話すと、全く印象が変わることが実際にやってみてわかったので、今後意識して話したいと思いました。

⑤本日はありがとうございました。日頃子どもたちに接する中で、コミュニケーション能力の大切さを感じています。前回の表情に続いて、声の大切さを勉強できて良かったです。元々低い声なので、状況に応じて使い分けるように意識していこうと思います。中でも、テンポを速くすることを意識して元気のある声を中心にします。そのた

めに、早くなってもつまらないように、話す内容を頭で整理しおさえてからしゃべるようにしていきます。次回も必ず参加します。

〈記録後記〉

「アイコンタクト」「表情」「姿勢」と学び、今回のテーマは、「子どもたちに声をとどけよう」でした。

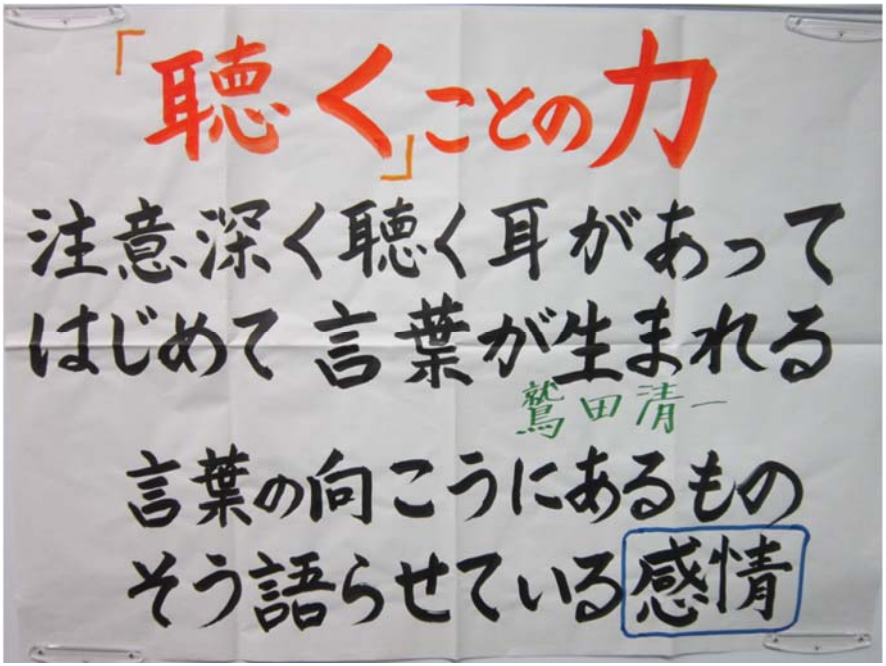
参加者は、90 秒スピーチのあと、グループで、声のイメージ・チェックシートを見て、自分の声が人にどう届いているのかをイメージしながら、高くしたり、低くしたり、ゆっくりしたりという変化をつけながら、子どもたちに届けたい声に近づけていきました。

岡田先生から、「教師が、子どもたちに語りかけ、対話し、子どもの体と心を動かしてこそ子どもたちは成長します。子どもたちにこんな声を届けたなあというようなことを、気づいてくれる時間になればと思っています。」との話がありましたが、参加した先生がたにとっては、多くの『気づき』があったのではないでしょうか。

岡田先生から、「ある先生が、『表情をつくるトレーニングを、通勤の車の中でやっています。外から変に思われないように、大きいめのサングラスをかけて･･･』という話を聞きました。」という話をお聞きしました。狭山の先生方の、日々の地道な努力が伝わってくるさわやかなエピソードでした。

第５回がじゅまるカフェ

平成２７年１０月２３日 18:00-19:45　大阪狭山市立南中学校



〈講義１〉前回までのおさらい

① 「１回目はアイコンタクトについてお話しました。配慮のいる子の対応に追われていると、周りの子が落ち着きを無くしていきます。そんな中で、教師の目線の配り方はとても大事ですね。前から横へＺ型に目線を配ったり、縦に順に配ったりと、いい授業をしたり、いいクラスにするには目が大事です。」

② 「２回目は表情をテーマにお話しました。自分では、自分の自然な表情は絶対に見ることはできません。鏡を見る時は鏡に映る表情を作ってしまっていますからね。日ごろから良い表情を作ってクラスに入りましょう。」

③ 「３回目は姿勢について、アクティビティーをやりました。もう一度やってみましょう。足を肩幅に開き、おへそを中心に力を入れて、どっしりた姿勢で立ってみましょう。次は両足のかかとをつけて、７カウントで息を吸ってつま先をあげてきてください。今度は３カウントで息を吐きながらゆっくりつま先を下げます。これを８セットから９セットやってみましょう。」

④ 「４回目は子どもたちに声を届かせようというお話でした。トーンや速さを変えることで、子どもたちにしっかり声を届かせることができるというお話でしたね。」

⑤ 「では、それぞれのグループで自分はこれまでの４つのうちどれをやってみたいか。または、こんなことをやってみて良かったということを自由に話し合ってください。まずは、自己紹介から。人生は自己紹介の連続です。」

〈活動１〉グループで、これまでの内容でやってみて良かったこと、これから取り組みたいことの交流

〈講義２〉

① 今日テーマは、「聴く」ことの力です。「注意深く聴く耳があってはじめて言葉が生まれる」というのは、鷲田清一さんの言葉です。その人の言葉の向こうにあるもの、そう語らせている感情に焦点を当ててみましょう。

② 今日はサイコロを用意しました。これからグループで転がして、出たテーマについて、９０秒で話してください。なぜ９０秒かと

いうと、子どもが集中できる時間は９０秒なのだそうです。

③ その前に、目の前のことに集中するアクティビティーをやってみましょう。この後、目を閉じて目の前にあった光景をいくつ再現できるかやってみます。さあ、いいですか？　できるだけ目の前にある光景を集中して覚えてください。（１０秒後）それでは目を閉じてください。はい今から３０秒間で、目の前にあった光景をできるだけ多く思い出してください。（３０秒間目を閉じて再現）

④ それでは、先ほど説明したアクティビティーをやって行きましょう。サイコロをグループに１つずつ取りに来てください。

〈活動２〉サイコロ・トーク

○５～６人グループで１人ずつ、出たテーマについて９０秒間で話し、その後感想を述べ合う。

１の目＝あなたの教員生活のとっておきのエピソードは？
２の目＝自分にはどんないい所があると思いますか？
３の目＝どんな時「よしやろう」という気持ちがわきますか？
４の目＝これまでの教員生活で最もやりがいを感じたのは？
５の目＝どんな時自分の力を発揮できていると思いますか？
６の目＝この仕事をやっていてよかったと感じたことは？

〈講義３〉まとめ・ふりかえり

① はい、それでは前を向いてください。私が中学校の校長の時、これからクラス・ミーティングをするというときに、鷲田清一さんのこの言葉をよくプレゼントしました。小学校の高学年子どもたちにも響く言葉だと思います。

② 今日やったサイコロ・トークの６つの質問は『はじめてのコーチング』という本にあった「最高の瞬間」を想起する質問です。最近の子はせめ立てられることが多く、自信のない子が多くなってきています。自分の「最高の瞬間」を語ることで、自信をつけさせていくことができるのではないでしょうか。是非、子どもたちに自信をつけてあげてください。

〈記録後記〉

今日のテーマは、「『聴く』ことの力」でした。

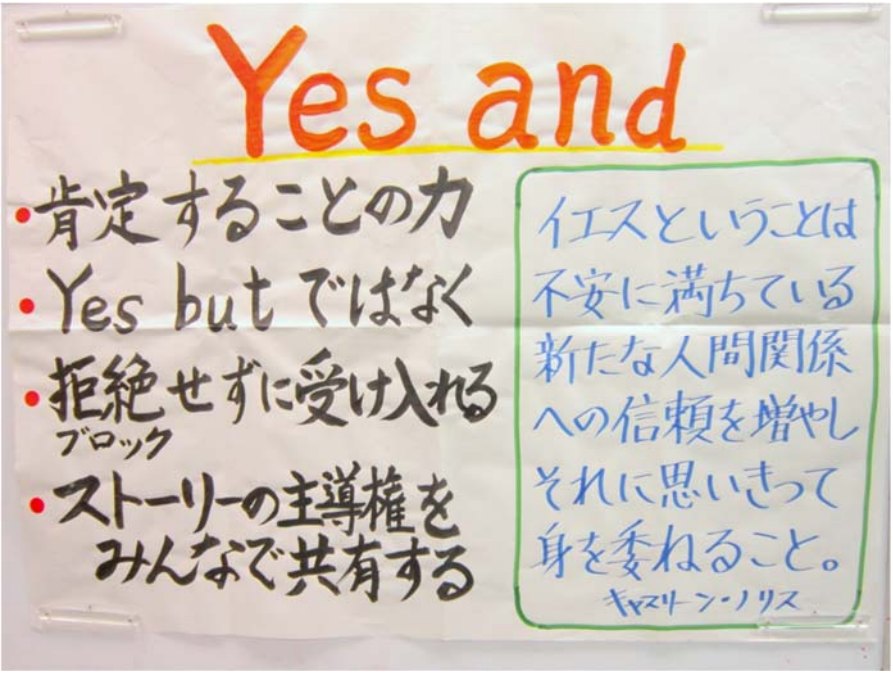
今回の研修も、いろいろなアクティビティーを通して、楽しく学ぶことができました。

岡田先生に教えていただいた、鷲田清一さんの『注意深く聴く耳があって、はじめて言葉が生れる』という言葉にあるように、人の言葉の向こうにあるもの、そのように語らせている感情について、子どもたちと一緒に学んでいきたいと思っています。

今回からの３回のガジュマルカフェは、中学校を会場にして実施します。このような機会を通じて、小中学校の先生方の交流が深められたらと思っています。

第６回がじゅまるカフェ

平成２７年１１月１３日 18:00-19:45　大阪狭山市立狭山中学校



〈講義１〉

① はじめて参加してくださった先生もいるので、前回までの「がじゅまるカフェ」を少し振り返っていきたいと思います。

② 第１回目は私たちが大切にしたい「アイコンタクト」でした。「ソフトフォーカス」というアイコンタクトの方法があります。ペアでちょっとやってみましょう。やってみてどうですか。やってみると、とても見やすいですね。

〈活動１〉

〇ペアになって、「ソフトフォーカス」という手法を使って、Ａさんは Ｂさんの目を見ながら１分間で周りに見えるものを出来るだけ沢山挙げていく。Ｂさんは幾つ言えたかカウントする。

〈講義２〉

① 教員にとってどんなスキルが大切か考えたとき、私は「行為の中の省察」であると考えました。行為が終わってから省察するともう遅い。行為の中で省察することが大切であると考えました。

② クラスでの指導はパズルか、ルービックキューブか、どちらでしょう？　たぶんルービックキューブに近いと思います。キューブの面がそろっていくように、子どもたちの気持ちがそろえるとき、自分もその一コマなんですね。だから、自分も絶えず動きながら子どもたちに目を配っていく必要があります。

③ 第２回目は「表情」です。親から子への笑顔は、表情の原体験です。周囲の大人から笑顔をもらうことで、子どもたちは「今日頑張ろう」と思えます。いい表情を作るために、眉を動かすトレーニングをしてみましょう。眉を３０回あげてみましょう。次は口です。３０回真横に引っ張ってみましょう。顔全体が柔らかくなりました。

④ 第３回目は「姿勢」です。ぶれない姿勢を作りましょう。その次に、柔軟に対応できる姿勢を作りましょう。

〈活動２〉ペアで割り箸ワーク

〇全員が起立して、「センタリング」というぶれない姿勢を作る。

〇ペアで割り箸を人差し指でささえて、しゃがんで、互いに回転して、最後に元の姿勢に戻る。初めは目を開けておしゃべりＯＫ。次は、目をつむっておしゃべりなしで。

〈講義３〉

① やってみてどうでしたか。スムーズに成功する秘訣をシェアしましょう。「思いやり」「相手の動きを感じる」・・・ぶれない姿勢と柔軟さの両方が大切ですね。

・第４回目は「声」についてでした。腹式呼吸をするために、吸うのを「１」とすると、吐くのが「２」になるような呼吸の整え方を学びました。そうすると、気持ちも落ち着いてきますよね。

② 第５回目は、「聴く」ことの力を学びました。よく聴くことができるように「耳引っ張り」を２０秒間やってみようと思います。

・やってみてどうでしたか。なんかよく聞こえそうですね。

③ さて、今日のテーマは、「Yes」です。「Yes」と言うことがとっても難しい時代になっていますね。「Yes」と「No」どちらが言いやすいでしょうか。「No」と言えば、無難です。「Yes」と言ってしまうと、何か自分でやらないといけない、「Yes」が言いにくい時代になっています。

④ そこで、「Yes and」が今日のテーマです。「Yes but」ではなく「Yes and」。これについて、私の息子があるとき、38,000 円の一生ものの靴を買いたいと言い出しました。しかしそこで、「いいね、でも、自分で買えるようになったら買おうね」と、but をつけてしまった。いまなら「Yes and」で返せるのですが・・・。

〈活動３〉ペアで「Yes and」の練習

○Ａさんが「遠くへ行きましょう」と呼びかけ、Ｂさんは「いいですね。遠くへ行きましょう」と「Yes」で応え、それに「and」をつけて「金沢へ行きましょう」と肯定的に付け加えていく。

〈講義４〉

① どうでしたか？　「and」「and」で積み上がっていくのは、たのしいですね。

② ここで、前回「課題だと思っていること」についてのアンケート結果を見ていきましょう。赤いグラフが前回がじゅまるカフェに参加したみなさんの数値です。緑色は某県の若い教員の数値です。

③ 今から皆さんにアンケート結果から一つ課題を選んでもらって、同じ課題を選んだグループで、「Yes and」を使って話し合いをしてもらいます。「Yes and」で、みなさんの課題解決を図っていきたいと思います。

④ 自分が話し合いたい課題の番号ごとに集まりましょう。グループで話す時、「and」に力が入りがちですが、むしろ「Yes」が大切です。言ったことそのものを「Yes」と言ってもらえるかどうか、即興です。それでは、やっていきましょう。

〈活動４〉課題ごとに集まり、現状とその解決策を話し合う。

〈講義５〉まとめ・ふりかえり

① やってみてどうでしたか？やっぱり「Yes」と言い続けるのは難しいですよね。子どもたちに「Yes」と一日言い続けることはできますか？その子の存在そのものを「Yes」、と言うことはできるでしょうか。

② 家で２００円で晩御飯を食べないといけない子ども、学校でなかなか「Yes」といってもらえない子ども、そこで「Yes and」と言ってもらえると、その子の根っこを作るのではないでしょうか。

③　「教育は熱と涙やで」という今日のタイトルは、私が最も尊敬する先輩の言葉です。やはり、教育は熱と涙です。思いきって「Yes」と言えるか、「Yes」を増やせるかどうか、また来週からがんばってもらえたらと思います

〈記録後記〉

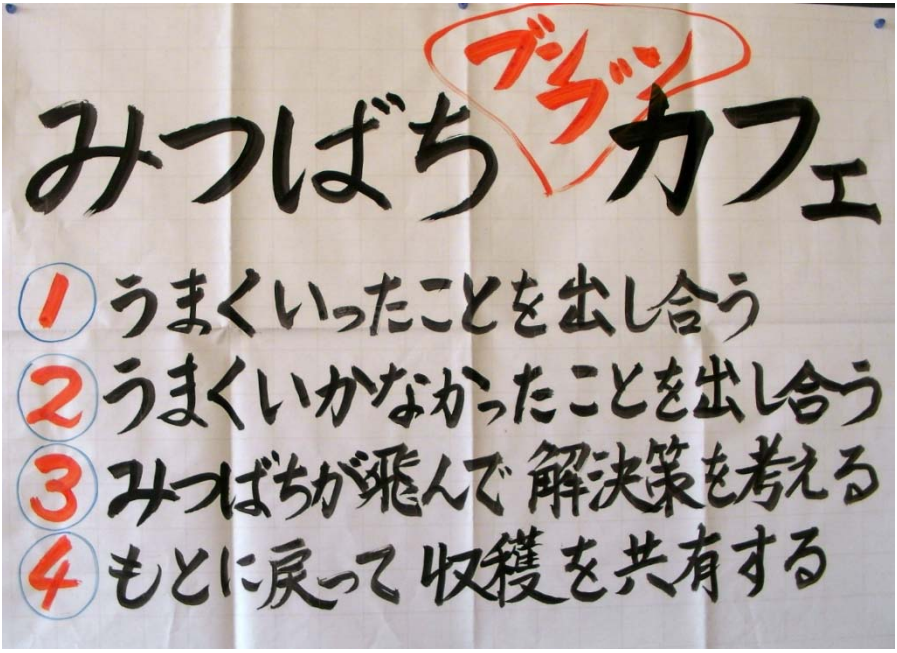
第６回ガジュマルカフェでは、これまで学んできたことを確認した後、「Yes and」の方法で課題解決を図るアクティビティーを行いました。

当日は取材のため、テレビカメラが入っていましたが、参加した先生方はカメラを意識することなく、集中して研修に参加していました。楽しく、いきいきと研修に参加している先生方の姿が印象に残っています。

大阪狭山市の先生方には、教育に対する「熱と涙」を持って、どもたちに「Yes」と言い続けながら、子どもたちの良さや可能性を伸ばしていくことのできるすてきな教師になってほしいと思っています。

第７回がじゅまるカフェ

平成２８年２月５日 18:00-20:00　大阪狭山市立第三中学校



〇到着した先生から席に着き、自由に話しながらカフェタイム。

〈講義１〉

① 第１回目は、子どもたち一人ひとりを同じ秒数（２秒程度）で見つめていく「アイコンタクト」でした。

② 第２回目は「表情」です。親からもらった笑顔は原体験です。皆さんから笑顔をもらうことで、子どもたちは安定します。いい表情を作るトレーニングをして、教室に向かいましょう。

③ 第３回目は「姿勢」です。ぶれない姿勢を作りましょう。その次に、柔軟に対応できる姿勢を作りましょう。

④ 第４回目は「声」について学びました。子どもたちに届く声は、教室の床を利用するといいと教えてもらいました。５メートル先の床に自分の声を響かせるようにあごを引きぎみに話すと、しっかり届く声になります。

⑤ 第５回目は、「聴く」ことの力を学びました。鷲田清一さんの「注意深く聴く耳があって、始めて言葉が生まれる」というフレーズは、ここというとき、子どもたちに届けたい言葉です。

⑥ 第６回目は、「Ｙｅｓ　ａｎｄ」です。「Ｙｅｓ」と言うことがとっても難しい時代になっています。「Ｎｏ」と言えば、自分が責任をとらなくて済みます。でも敢えて「Ｙｅｓ」と言ってみよう。「Ｙｅｓ　ａｎｄ」と、重ねて行こうという提案です。

⑦ では、今日は「みつばち　ブンブン　カフェ」というのに取り組んでみましょう。(1)自己紹介を含めて、プラス面を出し合う
(2)マイナス面を出し合う
(3)協力して問いをたてる
(4)みつばちが情報を集める
(5)集めたものを整理する
この５つの段階を、それぞれのグループで行っていきます。

⑧ ワールド・カフェは、席替えをするとき１人がホスト役として残って、残りの３人～４人は別別のグループに出かけますよね。みつばちブンブンカフェは、１人がみつばちになって、他のグループに出かけ、解決策を「質よりも量」で集めてくるのです。では、人生は自己紹介の連続と言われます。はじめましょう。

〈活動１〉みつばちブンブンカフェ

〇第１ラウンドでは、互いにうまくいったこと課題に思っていることを出し合う。次に、協力して問いを立てる。各グループが立てた問いは、次のとおり。

問Ａ「道徳で心の揺れ動くような授業ができない」

問Ｂ「ほめる基準ってありますか」

問Ｃ「子どもにメリハリをつけさせることのできる理想的な教師の関わり方」

問Ｄ「困り感のある児童生徒への声かけや対応」

問Ｅ「たくさんのリーダーを育てるには？」

問Ｆ「仕事を効率よくするにはどうしたらいいか？」

問Ｇ「子どもの心にひびく指導の仕方は？」

〇これらの問いを持って、みつばちが他のグループに飛んでいく。グループでは、飛んできたみつばちの問いに懸命に応えていく。第２ラウンド、第３ラウンドとみつばちが情報収集にあたる。

〇第４ラウンドで、もとのグループへみつばちが戻る。書かれた（集まった）意見をみて、参加者からは「わあ、すごいなぁ」の第一声が。

〇集まった内容をもとに交流

〈講義２〉

① それぞれマイナス面を出しあって立てた問いにとてもすてきな解決策が集まって、しっとりと話し合う様子をみて、みつばちブンブンカフェをやってよかった思います。

② 今回でこのカフェも７回目。私が所属している教員能力開発プログラムの研究開発チームの取組として、「がじゅまるカフェ」の記録が出版されることになりました。そこで「初任期の教員が育つもうひとつの場所」というタイトルを考えました。

③ みなさんは、職場でいろんなことを勉強します。これがまず第一。先輩や同僚、管理職から教えてもらいながら成長します。だけど、大阪狭山市には、もうひとつの場がある。みなさんから、がじゅまるカフェは素直に本音を出せる場だという声を聞かせてもらいました。学校では子どもがいるからなかなかまちがい O.K とはなりませんが、がまんせずにじゆうな心でまちがい O.K の場がいるのではと考えています。

④ 教育委員会の皆さんからはお菓子が用意され、校長先生からはお茶が出してもらえる。この一年、テーブルについてちょっとほっとしながら、同じような思い、悩みをもつみなさんが語れる場を設けてきました。私自身ご一緒させてもらって、とてもよかったと思っています。みなさんの課題や話し合われた内容を大学で学生に伝えて、一日も早くみなさんと同じように働ける教員になってもらえるよう指導していきます。

〈活動２〉アンケート（ふりかえり）の記入

〈挨拶〉田中典子理事

岡田先生ありがとうございました。みなさんも、たくさん参加していただいてうれしく思います。岡田先生のお話を聞いていると、同じことを繰り返さずに一度で伝えるすばらしさ。むだな言葉が一つもない話し方。これはとても難しいのに、先生はすごくその力をお持ちだと思います。アイコンタクトの強さ、言葉数が少なく、目で伝える、熱い気持ち。これまで関わった生徒さんや若い先生方に多くのことが伝わっていると思います。

がじゅまるカフェは、野口克海先生が、「継続して若い先生が集まる場があるととても力がつく」と言われたことがスタートでした。残念ながら、野口先生は亡くなられましたけれども、メールでお礼を送信したところ、昨日返信が来てびっくりしました。どなたが送ってくださったのかはわかりませんが、天国から野口先生からメールが届いたように感じました。野口先生の思いは岡田先生が引き継いでくださっています。それをまたみなさんが直接子どもたちに伝えてもらえたらと思います。

岡田先生、本当にありがとうございます。

＜記録後記＞

「がじゅまるカフェ」は、経験の浅い先生たちの「教育者」としての芽が、「がじゅまるの樹」のように大きくたくましく育つことを願って校長会と市教委が共催で実施しました。今年度は、『子どもや保護者と気持ちで通じ合うことの大切さ、その前提として具体的な教師力を高めること』をめざして、大阪教育大学の岡田耕治教授に、ご指導をしていただきました。岡田教授の愛情あふれるご指導のおかげで、参加した先生方の教師力の確かな成長を感じています。

学んだことを礎に、これからも教員として学びつづけてほしいと願っています。岡田教授には、お忙しい中、ご指導いただき、心より感謝しています。本当にありがとうございました。

がじゅまるカフェ　ふりかえり

平成２８年２月５日に実施した参加者のアンケート

A. 今日のカフェに参加して、感じたこと、思ったことを自由に書いてください。

・子どもに対する関わり、道徳授業のつくり方、ほめる基準など、多様なテーマについて考えることができました。また、その問いに対する答えも考えることができたので、今後の教員生活に活かせそうだと思いました。

・みつばちブンブンカフェということで、疑問に思っていることを多くの先生方が意見を出し合えてよかったです。振り返りも行なうことができ、はじめより成長することができました。

・今日のぶんぶんカフェで、私はみつばち役だったのですが、多くの先生がたに今までの経験のお話をうかがうことができました。今日の問いは、私も今現在悩んでいる「子どもの心にひびく指導の仕方は？」でした。先生方に教えていただいた「愛メッセージを送る」と「あかんことはあかん」という策を明日から実践していきたいです。

・みつばちブンブンカフェをして、プラスの面や、マイナス面の話をしたり、聴いたりすることで、自分にもあるなあと思うことがたくさんありました。周りのグループの問いに答える中で、自分を振り返る場になったと思いました。最近、ほめているけど、このほめ方が良かったのかなあと、考えながら話ことができて良かったです。

・「行為の中の省察」という言葉がしっくりときました。私の中では、

一つのことをしながら、別のことを考えるということで、「ダブルシンキング」と思っていました。生徒指導で私が話した後の、生徒の反応がいつも違うので、自分が話をしながら、反省してきたいと思いました。

・プラス面を話す時間、マイナス面を話す時間と別々に設定されていた。マイナス面を話していると話はすすんだが、気は落ちていった。みんなも悩みを多く持っているように感じた。プラス面を話と気が明るくなった。プラス面を日々考えていこうと思いました。ぶんぶんカフェでは、いろいろな知恵を聞くことができてよかったです。

・普段、話をしない人たちと、話をすることは改めて大切だと思いました。今年は、３年目、クラス担任、教科担当は２回目となり、かなり初任のころに比べ、できることは（子どもとの関わりのなかで）は増えたが、まだまだ足りていない部分のあると日々感じていることを「言葉」にして表現できたことは自分にとってプラスとなりました。

・みつばちブンブンカフェと巣立ちつばめカフェとの違いがわからなかった。

・一つのテーマに対して、小中学校の先生方からたくさんの意見を聞くことができ、短時間ですがとてもいい勉強になりました。明日から、子どもたちのために活かしていきたいと思います。

・一番最初に、今までの振り返りをしてくれた時、いつも思うことがあります。表情や姿勢、アイコンタクトなど、日々授業に精一杯すぎて、忘れてしまっていることを思い出されます。気をつけないとなあ、と思い改めました。他の人たちの悩みを聞いて、やっぱり皆さん同じ

ようなことで悩んでいらっしゃって、少し安心したのと、皆で話し合って意見を聞けて、良かったです。私の中にはない、答えもあったので、視野が少し広がりました。

・笑顔で！とか、目を見て！とか、先生の話を聞いて、自分が今忘れているものに気づくことができました。忙しくて、余裕がなくなって初めに思っていた気持ちをわすれていました。また、初心を思い出して、笑顔で子どもたちの前に出たいと思いました。

・道徳でどう心をゆさぶるか、ほめる基準、子どもにメリハリをどう突きつけるかなど、悩んでいるけど、なかなか聞きにくい問いについて、色々な考えがあることが知ることができて良かったです。少しずつ自分のものにしていきたいです。

・学校に若い先生がいても、なかなか忙しくて話しかけたりできなかったので、いう場所があると初めて知ってとてもありがたかったです。他の先生と同じ悩みを共有できました。

・今日参加させていただいて、一番良かったことは、とにかくたくさんの先生方のご意見に触れることができたことです。やはり、大事なんだと再確認できたこともあれば、初めて聞いて「すごい！」と思うこともあり、とても充実した時間を過ごすことができました。

・グループでの質問が他のグループの先生の話を聞いてくることで、たくさんの解決策や指導の仕方を知ることができました。特に、中学校の先生方からのお話や指導の仕方は、自分が経験していないことがおおかったので、とても刺激的でした。

・ぶんぶんカフェでおこなったワークショップがとてもおもしろく、これは現場でも応用できるので、生かしていきたいと思いました。

・正直言うと、今精神的にしんどいです。でも、ここに来て良かったです。いろいろな思いや考えを持った人たちと話ができて少し楽になった感じがします。話をするって大切なんだなあと思いました。先生と目が何度もあいました。先生優しいと感じました。ありがとうございました。

・小中の関わりが深まり、「タイムタイマー」など中学では使わない道具や、今までと違う逆の発想で気付きをもらいました。

・最終回ということで、今までの振り返りと新しい内容を学ぶことができました。「みつばちブンブンカフェ」は、悩みを複数で考え、意見をもらえる有効な方法だと思いました。このがじゅまるカフェで学んだことを少しでも、今の現場で生かしていけるようにしていきたいと思いました。

・グループの話合いの中で、他校の先生方の話をきけたことが良かった。なるほどと、思うことや、あらためて自分も気付くことが多くあった。

・ほめる基準や道徳心の育て方について、たくさんの意見が出て、新しい考え方ができるようになりました。

・同じ悩みを持っている先生がいて、悩みに対する話合いをもてたことが自分にとってプラスになりました。

・悩みや問題に直面したときに、一人や少ない人数で抱えるのではなく、様々なところから意見をもらうことで考え方が広がるということを改めて感じました。

・一つの対応について、色々な考え方があると感じました。けど、最終的なゴールは同じであり、どんな道を選ぶのかは、その人の個性ややり方次第だと思いました。間違った道を選べば、最終ゴールへはたどりつけないと思います。

・経験の浅い先生方が多いけど、知恵を出し合うと色々参考になることも多かったし、同じように悩んでいることがわかり、心強かったです。中学の先生の話は、特に参考になりました。

・みつばちブンブンカフェがとても良い対話の手段の一つだと感じました。子どもたちグループ学習にいかしていきたいと思います。

・多くの先生と日頃抱えている思いについて話ができて良かったです。同じ悩みを持った方もいたので、一緒に解決策を考えることができ、有意義な時間を過ごすことができました。

・がじゅまるカフェには、初めての参加でした。来る前は、どういったものなのか不安でしたが、いざ参加してみると、校種を越えた先生方の意見を聞けて、とても参考になりました。また、自分が悩んでいることを他の先生がたも同じように悩んでいるのを聞いて、少し安心しましたし、もっと意見交換したくなりました。

・教員の在り方をいつも改めて見つめ直せています。色々な先生と話をすることで、多くの意見や考え方を共有できて嬉しいです。

・小学校の様子が聞けて、勉強になりました。いっぱいしゃべって、楽しかったです。

B. これまで「ガジュマルカフェ」に参加されて、よかったこと、役だったことはどんなことですか？

・気付いたことは、より深く考えることができました。また、自分では、気付かなかったことを知ることもできました。校種、校区を越えて、いろいろな先生方とお近づきになれたことが良かったです。

・当たり前と思っていても、よく知らないことを学び合い（交流）を通じて、身に付けることができました。また、話題が明日の実践から手軽につかえるものでよかったです。

・交流できたことが、一番よかったと思います。

・交流できたことが一番よかったと思います。毎回のお題について話し合いながら、ふだんの会話では中々できないような「学校での悩み」について、聞いたり話したりすることができて、安心したり、次の指導にいかしたりすることができました。

・巣立ちツバメカフェや今日のみつばちブンブンカフェは、自分の困っていることや周りの方が困っていることを話して、自分におきかえたり、振り返れたりするから良かったと思います。また、表情やアイコンタクトはとても大事なことだと学び、実際にやってみると子どもとの距離が縮まるのでこれからも続けます。

・みつばちブンブンカフェは、学活で班の活動にも使えると思います。

・日頃の授業で使えることを教えて?いただき、次の日から気をつける気持ちを持つことができた。とくに、アイコンタクト、声の強弱には気を付けようとその日は、思って帰ることができた。

・本当に色々なことを教えてくださるので、その中に必ずといっていいほど、翌日から使えるワザやポイントが見つかることです。岡田先生の話し方、間の取り方も本当に参考になるので、真似から入っていきたいと思います。

・授業に対する姿勢やパフォーマンスに関する題が多くあったので、他の研修にない内容で興味が持てた。特に「声」の回では、どのように声の表情をつけていくのかが、今年自分のテーマにしていたので、大変勉強になった。

・二つあり、一つ目は違う小中学校の教員のかたのお話が聞けたり、顔見知りが増えたことです。二つ目は、クラスの中を深める際の取り組みや、声かけ、指導法などを学べたことです。

・他の先生たちと話していて、先輩の先生からアドバイスをいただけたことが良かったです。特に、小学校の先生がおしゃっていたことは、中学校の先生からは聞けなかったことなので、目から鱗のこともありました。表情や姿勢、アイコンタクト、こころがけて頑張りたいです。日頃忘れてしまっていることを、思い出されてくれる場でした。

・いろいろな先生の意見を聞けたり、小学校の話を聞けたり、自分の悩みを相談できたりと楽しい、また勉強になる時間でした。新しいアイデアをいただけたり、とても充実した時間でした。

・ベテランの先生が普段使っている技術を知ることができ良かったです。アイコンタクトの技術は普段から活用し、子どもたちも落ち着いてきたと最近感じます。また、イントネーションを変えるだけで、伝わり方が全然違うということも再確認でき、子どもへの声かけを注意していきたいです。

・WYSH 教育は、自分がめざしたい授業の流れだと思ったので、それがグラフ化されていてわかりやすかったです。また、こういう機会があったら、参加したいです。

・今日は「仕事の効率化」をみつばちブンブンカフェで学びました。一番印象的だったのは、「年間行事がでた時点で、逆算して締め切りを設定する」というものです。すぐにはできないと思いますが、頑張りたいです。

・「明日したい！」「試したい！」と思うことがたくさんありました。アイコンタクトは、自分でも実践することができました。少し経ち、忘れかけていても、またガジュマルカフェにきて、「そうだ！　アイコンタクトしなきゃ！」と思い出すことができました。

・違う学校や他校種の先生方と話ができて、いろいろなやり方、価値観を勉強できました。

・困り感のあり児童生徒への対応につて考えました。なるべく子どもと目線を合わせて友達のように対応したり、その逆の考えもありました。でも、やっぱり、どの先生も子どもを見て、メッセージを送り続けることが大切だと思いました。

・授業での生徒との関わり方を具体的に教えてもらえ、次の日から活用させてもらいました。

・教員として必要であり、かつ基本的なことを知ることができまたところだと思います。特に、声や表情、姿勢は、がじゅまるで学んだからこそ意識ができるようになりました。

・先生として、大切なこと姿勢を学んだことが良かった。いろいろな人と話ができたこともとっても、良かった。たくさんの大切なことの準備をしていただき、ありがとうございました。大変わかりやすかったです。

・印象に残っているのは、言葉のイントネーションの変化で、生徒の受け取り方が変わると置いうことです。「どうしたん？」という言葉の練習で実感しました。

・今後の児童への対応の引き出しが増えたのでよかったです。共感できて、よかったです。

・同年代の先生方と悩みや話題を共有することで、参考になったし、自分のまた頑張ろうと思えたこと。

・思っていることを普段よりも気軽に言えるのが良かったと思います。普段の自分を見つめ直せる機会にもなっています。

・つらい時や、仕事ばかりでなく、早い目に学校を出て、自由に悩みを話せたこと。煮詰っているところから、少しぬけ出せた気がします。講師の先生も、おもしろくて良かったです。

・他校の先生との交流はもちろん、特に中学校の先生との意見交換がとても良かったです。小中の差などが知れたので、今後の授業や学級運営にいかしていきたいと思っています。

・アイコンタクト、表情といった、普段の当たり前のようにしていることに対して、もう一度考えてみることで、大切さを改めて感じることができました。色々な先生方の話を聞くことができて、とても刺激になりました。

・今回が初参加でしたが、いろいろな話を聞けて非常に有意義でした。

・テーマが決まっているので、明日から行動にうつしやすいと思います。「人の目を見る」「表情」「聴く力」など。

・みつばちカフェが面白かったので、道徳の授業などで、使ってみたいです。

C. これからの「ガジュマルカフェ」に期待することを書いてください。

・今年１年がじゅまるカフェに来ましたが、自分の力量を高めることができたと思います。子どもたちのためにも、少しずつ自分の力を付けていきたいと思います。ありがとうございました。

・より多くの先生方と話し合えたらいいなあと思いました。若手からベテランまでの先生方が集まる場となってほしいです。また、授業研や授業アイデアについて教えてもらいたいです。

・また、様々な話について気軽に話し合う場があればと思います。

・子どもとの距離やアイスブレイキング　問を話し合って決め、聞きに行くのはまたやりたいです。

・学んだことを試していきたいです。

・今後も次の日から活かせることを教えていただきたいです。1年間ありがとうございました。

・来年度のよろしくお願いします。

・いつも参加している「研修」という感じではなく、気軽に雑談しながら悩みを相談できる場であってほしい。

・教員同士をの中を今以上に深め、職場で生かすことのできる場を作っていただけることを期待しています。

・同じように、いろんな先生と交流しながら悩みを解決していけたら良いなあと思っています。

・今日のみつばちカフェやツバメカフェのような、悩みを班以外のたくさんの人に意見をもらえるような場がうれしいです。あと、先生の初心にもどれるようなお話もたくさん聞かせてもらいたいです。

・まだ、「がじゅまる」が何をしているのか知らない人が大勢います。知ってほしい。

・これからも、若手がかかえる悩みにこたえていってほしいです。

・若い先生のよくもつ悩みを受けて、その解決策を教えてほしい。（子どもの叱り方、ほめ方、学級のつくりかた、授業のつくりかた、問題がおこったときの対応の仕方など）

・小学校から中学校、たくさんの先生方とお話しすることは、新しい発見がたくさんあり、これからの続けていただきたいです。とても勉強になる時間でした。

・悩みを打ち明ける場としては良いが、解決策を示してくれる先生方がいればいいと思います。

・日常、他校の先生とゆっくり話す時間がないので、自由に話す時間が持てたから良いと思う。その中で、課題があり、学べることがあると思う。

・いろいろな先生が、自分の課題や悩みを相談し、前向きに仕事に取り組む糧となる場であってほしいと思います。

・若い教員が育つもう一つの場が、大阪狭山市だけでなく、どんどん広がっていけばいいなあと思います。

・いろいろな人と話せてよかったです。

・始まる時間がもう少し早ければと思います。

・おいしいおやつ！　ベテランの先生の話も時には聞きたいです。

・今年のがじゅまるカフェは、教員としての心構えや人としての内容が多くてとても良かったです。次は、授業力があがる方法やグループの力を高めるワークショップなども勉強してみたいです。

・今まで通り、多くの先生方と日頃の話を気軽に話ができる場であってほしいです。

・継続して開催していただき、もっと意見交流の場を増やしてもらいたいです。

・多くの意見を聞きたい。

・せっかくの交流の場なので、もっとベテランの先生なども参加していただいて話を聞いてみたいと思いました。

2016 年 3 月 25 日印刷
2016 年 3 月 30 日発行

初任期の教員が育つもうひとつの場所
大阪狭山市がじゅまるカフェの記録

大阪教育大学大学改革強化推進事業　教員能力開発プログラム

大阪教育大学

〒５８２－８５８２　大阪府柏原市旭ヶ丘４－６９８－１
電話　０７２－９７６－３２１１（代）

印刷：石川特殊特急製本